

◎野木京子 10月

私たち愚痴を書く時ひらがなの
とめ はね はらい が
活発になる

猫谷圭希（広島県）

*日記に書く。言いたかったのに言えなかったことや、言ってもしかたがないことを。そういうとき、「とめ はね はらい」が活発になっているのか。おもしろいことに気付く、いきいきした感受性。

涙して再会したけど切なくて
夢なのになんか硝子越しでさ

小林奔（神奈川県）

*会いたい人に夢でようやく会えたのに、夢のなかでもガラス越し。いまの世情を反映して、触れあうことのできない切なさを感じる。

運命

僕にしか聞こえない鈴の音で
透明な森に導かれるみたいなこと

まちりこ（埼玉県）

*うまいなあと感心した。導くのが鈴の音で、導かれる先が透明な森という美しいイメージ。それぞれの人にとって、運命は美しく大切なものであるはずだから。

秋ですという顔をしてビルが立つ

細村 星一郎（東京都）

*真夏のビルはキラキラしていた。秋になるとビルまでも愁思の顔。どんな顔なのかよくわからないのに、わかるような気になるので、おもしろくて不思議。

面談を終えていつもの帰り道
夕日がこわいかおをしている

さいう（愛知県）

*二者面談や三者面談。プレッシャーをかけられて緊張した。怖い顔をしていたのは先生なのに、夕日にうまく投影して、心の重さと辛さを出した。

助けてを 言えぬ命が
今夜また 果てない痛み
抱えて凍え

ゆうか（東京都）

* 児童虐待のことか。「助けて」を言えないのは幼すぎるからではなく、虐待以外の幸福な時間を知らないからだ。読んで辛い気持ちになった。

脳も肉

すきな水辺を教え合うことにも
身体が必要なこと

青木雅（埼玉県）

* 脳も臓器のひとつらしい。肉がなかったら、心もない。心の働きとは「すきな水辺を教え合う」ことだと定義していて、その発想も新鮮。

胎内に別人が住むこと
知った空
はつゆきがふり
「こゆき」と呼んだ日

加藤 美紀（愛知県）

* 母になることの怖れや不安に満ちた日に初雪を見た、と繊細に描いた。胎内の子に、仮の名付けをして愛おしむ。

幸せくんとは
追いかけてこをしないこと

お米みたいに
毎日工夫して味わうこと

さくらママ♪（兵庫県）

* なるほどと感心し、しみじみした気持ちになった。たしかに幸せは工夫して味わうことで長持ちするし、ますます大切なものになるのだから。

未来の欠片を寄せあつめ
ルーチンワークは終わらない

mi.（東京都）

* 未来のない死後の世界では、ルーチンワークすらなくなるのだから、終わらないことは有難いことでもある。